

## 蕨市立病院経営改革プラン外部評価員会議概要

【日 時】 令和3年2月

【会 場】 書面開催

【外部評価員】(敬称略) 須田嵩、内田研

【内 容】

- (1) 令和2年度上半期中間決算について
- (2) 第2次経営改革プラン行動計画実施状況について

### 配布資料

- 資料1 令和2年度上半期報告  
資料2 令和2年度上半期(業務量)  
資料3 第2次蕨市病院経営改革プラン—行動計画の実施状況—  
資料4 蕨市立病院経営改革プラン外部評価員名簿  
資料5 蕨市立病院経営改革プラン外部評価員設置要領

参考資料1 令和元年度決算概要

参考資料2 未収金の状況について

### 資料説明

資料1 令和2年度上半期報告について

(1) 収益的収入及び支出 (ア) 収入

上半期における事業収益は、11億5,700万2,735円となり、前年度と比べて3億7,595万4,568円の減収となりました。そのうち、入院・外来、その他医業収益をあわせた医業収益の合計は、前年度比3億7,316万695円減の11億3,740万239円となっております。

(1) 収益的収入及び支出 (イ) 支出

支出の事業費用につきましては、14億2,197万8,157円となりまして、前年度より8,959万2,195円の減となっております。

医業費用のうち給与費につきましては、非常勤医師等にかかる賃金が減少したため、前年度比856万1,809円減の8億9,588万5,032円となっております。

材料費については、患者数の減少により前年度比7,757万8,169円減の2億7,087万7,266円となっております。

経費につきましては、医師等紹介手数料や委託料が減少したことなどにより、前年度比662万5,187円減の1億9,980万9,844円となりました。

これらの結果、上半期における事業収益・事業費用の収支差引は、前年度比 2 億 8,636 万 2,373 円減の 2 億 6,497 万 5,422 円の純損失の計上となりました。

#### 資料 2 令和 2 年度上半期（業務量）について

令和 2 年度上半期における患者数であります。入院合計は 1 万 2,778 人となり、前年度より 5,878 人の減、率にして 31.5%の減となりました。次に外来では合計が 4 万 2,411 人となり、前年度より 2 万 1,163 人の減、率にして 33.3%の減となっております。

診療科別で見ますと、入院では眼科を除く他の診療科で減少しており、主に、内科で 3,381 人の減、産婦人科で 1,628 人の減となりまして、病床利用率は、前年度より 24.71 ポイント減の 53.71%となっております。

外来においても、人工透析科を除く他の診療科で減少しており、特に小児科、耳鼻科で大きく減少しております。

資料の左下にあります産婦人科の分娩件数につきましては、前年度比 98 件減の 145 件となっております。また、その下の各診療科における手術件数につきましては、眼科で 6 件の増となったものの、産婦人科で 78 件の減となっており、全体として前年度比 81 件減の 380 件となっております。

資料右上の収益であります。入院における一人あたりの収益は、眼科において今年度の診療報酬改定で白内障手術の点数が下がったことにより前年度比 5,580 円減少したものの、産婦人科において消費税に伴い分娩料を値上げしたことや、内科において入院時の新型コロナウイルス検査を保険適用で実施していることなどから、全体としては、前年度比 483 円増の 3 万 6,064 円となっております。上から 3 つ目の表にあります、入院全体の収益としましては、一人当たりの収益は増加しましたが、患者数が大幅に減少したことにより、前年度より 2 億 297 万 886 円減の 4 億 6,082 万 2,665 円となりました。

次に、外来における一人あたりの収益については、内科において新型コロナウイルス検査を保険適用で実施していることや、1 回の診療にかかる処方日数が増えたこと、また、整形外科で骨粗しょう症に対する在宅自己注射の件数が増えたことなどにより、外来全体としては、前年度比 1,539 円増の 1 万 1,649 円となっております。外来全体の収益においても、一人当たりの収益は増加しましたが、患者数が大幅に減少したことにより、前年度より 1 億 4,869 万 9,967 円減の 4 億 9,406 万 1,992 円となっております。

#### 資料 3 第 2 次経営改革プラン行動計画の実施状況について

各項目の〈令和 2 年 12 月末現在〉が最新の実施状況となっております。

#### 参考資料 1 令和元年度決算概要について

「1. 医業収益」では、入院収益が令和元年度は 12 億 6,416 万 450 円、前年度比 105.5%となり、外来収益では 12 億 7,423 万 289 円で、前年度比 96.3%となりました。その他医業収

益 4 億 381 万 2,378 円を合わせた「医業収益」の合計は、29 億 4,220 万 3,117 円となり、前年度と比べて、約 1,734 万円の増収となりました。

次に、「2 医業費用」ですが、医業費用の合計額は前年度比 99.9%の 29 億 3,833 万 7,964 円となり、約 328 万円の減少となりました。

この結果、医業利益は 386 万 5,153 円となり、この医業収支に、施設使用料などの医業外収支などを加えた結果、令和元年度は 4,061 万 3,631 円の純損失の計上となっております。

#### 参考資料 2 未収金の状況について

資料の中ほどにあります「年度末未収金総額の推移」の下段、令和元年度末の未収金額は入院が 1,250 万 6,127 円、外来が 273 万 9,631 円の合計 1,524 万 5,758 円となっており、前年度に比べ約 14 万円増加しております。この未収額のうち、令和 2 年度に納入された金額が、その下の令和元年度以前分納入額に記載しております。令和 2 年 1 2 月末現在で入院、外来合わせて 265 万 5,080 円が納入されております。一方、令和 2 年度に発生した未収金額は、そのさらに下に記載しているとおり、昨年 1 2 月末現在で入院、外来合わせて 422 万 3,061 円となっております。ただし、このうち 234 万 7,848 円は 1 2 月発生分となっております。

これら未収金の対応につきましては、未納者に対して毎月催告書を送付するほか、連帯保証人を含め診療費等支払保証書の提出を徹底するとともに、総合受付や地域医療連携担当と連携をとり、支払い相談など早期段階での介入を行うよう努めております。また、健康保険等未加入者については入院前に患者と対面し、診療費概算の預り金をするなど対策をとるよう努めております。